

発表⑥ 嶺南ブロック代表

「真の男女共同参画社会へ」 敦賀市立気比中学校 1年 吉澤 真結子（よしざわ まゆこ）

私はこの発表にあたり、男女共同参画社会とはどういうことか、インターネットで調べてみました。すると、「男女がお互いに尊重し合い、職場、学校、家庭、地域社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができる社会」と書かれていました。

まず、身近なところでうちの家庭ですが、私が物心ついた頃から、父はずっと会社勤めをし、母が主婦として家事、育児に専念し、私と兄2人を育ててくれました。そう考えると、「うちの家庭って、今どき時代遅れ！」なんて思っても不思議ではありません。しかし、私は、そんなふう感じたことは一度もありません。固定的な役割分担をしていながらも、父と母は対等なパートナーであり、私たち子供に対する態度も、個人としての意思を尊重してくれていたからです。父は母に、「いつもありがとう」や「疲れていたら無理しないで」と思いやりのある言葉をかけていたので、仕事が忙しくて、家のことを手伝えない父を責める気持ちなど無かったように感じます。

そんな母も3年前にパートで働き始め、今年の4月からは正社員としてフルタイムで働いています。母は18時過ぎに帰ってきて、今までどおり手作りにこだわった食事を用意し、朝早く起きて洗濯をしています。

ある日、私と兄の朝食の食器が、夕方そのままテーブルに残っているのを見た母に、「休校を無駄にしないで。2人で協力して家のことをしなさい。」と叱られました。そこで、私は食事を作り、兄は洗濯をすると決めました。インターネットで材料と作り方を調べ、ハンバーグ、ドリア、ソースカツ丼、餃子、カレー、パスタなど、いろいろな料理を作りました。すると、家族みんなが喜んでくれて、「おいしい」「すごい」「天才！」と口々に褒めてくれるので、やる気がわいてきて楽しく作れました。

幸せなことに、私の周囲では男女差別など感じたことはありませんし、両親は「将来やりたいことは応援するし、学費も兄弟3人平等に準備しているよ。」と言ってくれます。

しかし、社会には不平等や男女格差が残っていることも知りました。新聞に男女格差の記事を見つけたのです。「対コロナ戦争」の最前線に立つ看護師の88%、スーパーマーケット従業員の90%が女性だということです。日本でも看護師の92%は女性が占めています。一方でこれらの人に指示を出す人たちの大半は男性であり、男性に比べて女性のほうが危険にさらされやすい構図になっているようです。

対コロナに携わる人たちは皆、自分の職業に誇りを持って働いていると思いますが、有事の際に危険にさらされる可能性が高い職業に就いているのは、女性が多いという事実が存在しているのです。自分で選択した職業だから危険でも仕方がないというのではなく、彼女たちが安心して働けるように、皆が自分のこととして捉え、支援を考えていくべきだと思います。

新型コロナウイルスによる休校と、母のフルタイム勤務によって、私は兄と家事を分担するようになりました。お手伝いではなく、受け持った仕事に責任を持ってやり遂げようと思います。そして家族みんなが協力し、それぞれの仕事を尊重し合うことは、「真の男女共同参画社会」であると思います。

性別の差や身体的特徴はありますが、それを理解しながら、お互いの欠点や苦手なことをカバーし合い、一人一人の能力を生かして活躍できる社会が当たり前となるように、まずは自分の意識を変え、様々なことにチャレンジしていきたいと思います。